

第1章 流域の自然状況

1-1 流域及び河川の概要

松浦川は、その源を佐賀県杵島郡山内町青螺山（標高 599m）に発し、鳥海川等の支川を合わせながら北流し、唐津市相知町で厳木川を合わせ、下流平野部に出て徳須恵川を合わせ、その後は唐津市中心市街部を貫流し、玄界灘に注ぐ、幹川流路延長 47km、流域面積 446km²の一級河川である。

その流域は、佐賀県北西部に位置し、唐津市をはじめ、伊万里市、武雄市、山内町の3市1町からなり、流域の土地利用は、山地等が約 84%、水田や畑地等の農地が約 15%、宅地等の市街地が約 1%となっている。

流域内には流域内人口の約 5 割が集中する唐津市があり、沿川には、JR 筑肥線、唐津線、国道 202 号、203 号等の基幹交通施設に加え、西九州自動車道が整備中であり交通の要衝となるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤を成すとともに、松浦川の豊かな自然環境に恵まれていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



図 1- 1 松浦川水系流域図

1 - 2 地形

松浦川流域は、脊振山地や丘陵地に囲まれ、河口部が虹の松原を有する玄海国定公園に指定されているほか、黒髪山県立自然公園等がある。松浦川は標高が約 400～500m の山地を源流としており、河床勾配は約 1/500～1/10,000 と比較的緩勾配である。一方、厳木川は、作礼山（標高 887m）、八幡岳（標高 764m）と比較的高い山地を抱えており、河床勾配は約 1/50～1/500 と急勾配になっている。



図 1- 2 松浦川地形図

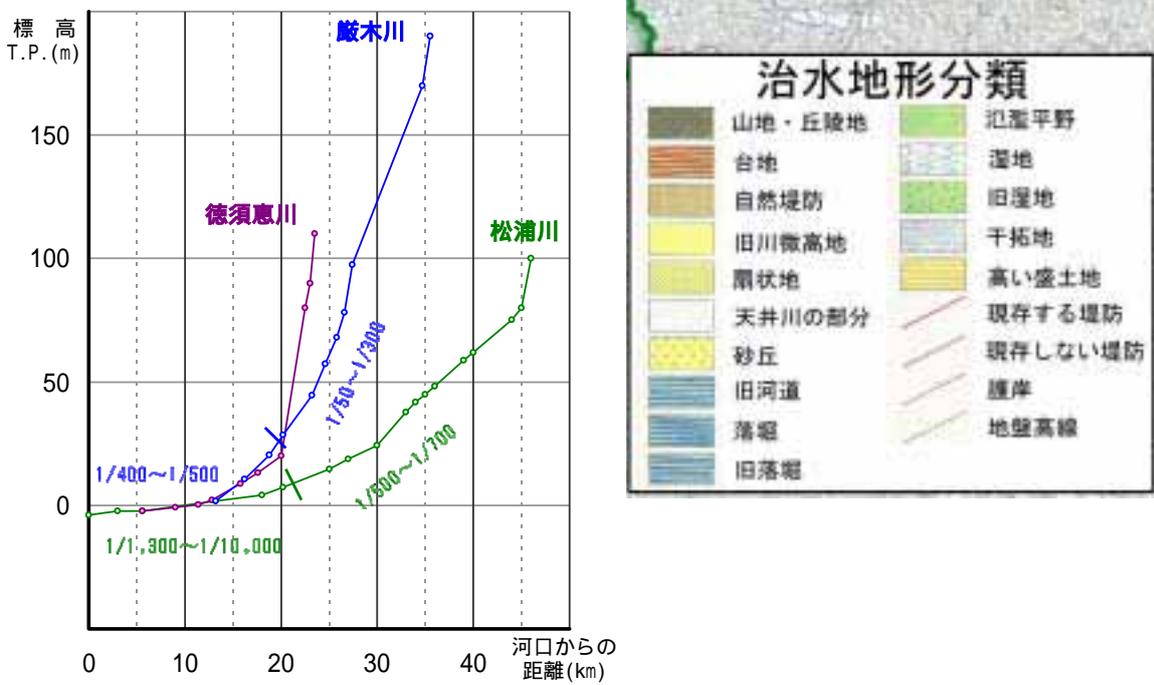
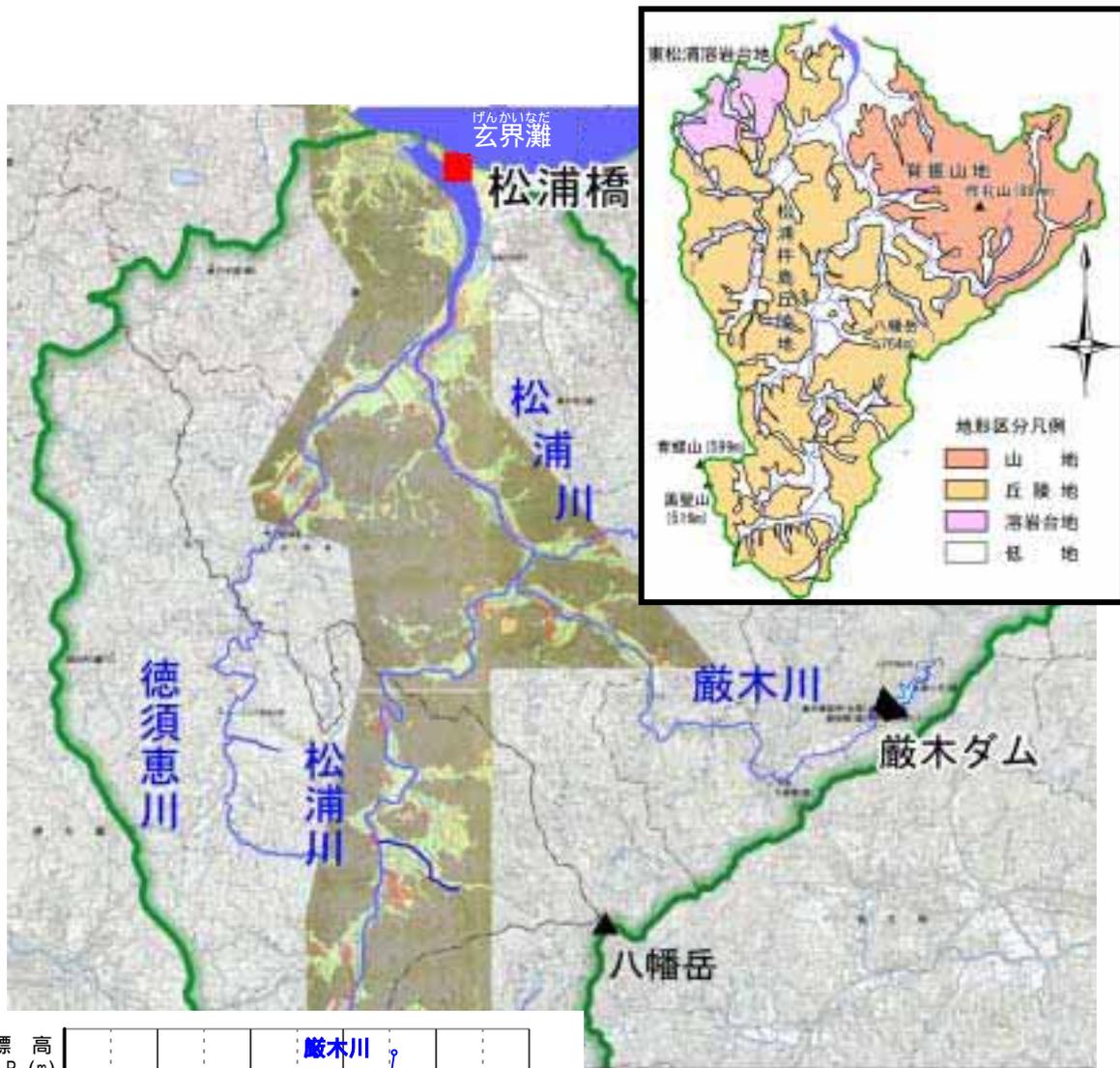


図 1-3 松浦川流域の地形分類図

1 - 3 地質

松浦川上流域から、徳須恵川上流域の大部分は古第三紀層に属しており、岩石は、左岸・頁岩が主でまれに凝灰岩・礫岩が見られる。岩層は一般にやわらかく、侵食も早く進み、丸みをもった低い丘陵地になっている。

松浦川下流域の山地および巖木川流域は、中生代の生成ともいえる東松浦花崗岩が大部分を占める。



図 1- 4 松浦川流域地質図

1 - 4 気候・気象

松浦川流域は、日本海沿岸に面しており、気候は日本海型気候区に大別される。年平均気温は16度であり、全般に温和な気候である。

月別降水量は梅雨期にあたる6月から7月に多い。上中下流域の降水量を比較すると、各月ほぼ同じであるが、6月は上流域で多い傾向にある。

年間降水量は、上流域2,200mm、中下流域1,700～1,900mmになる。また、流域内の年平均降水量は約2,100mmであり、全国平均に対して約1.2倍である。

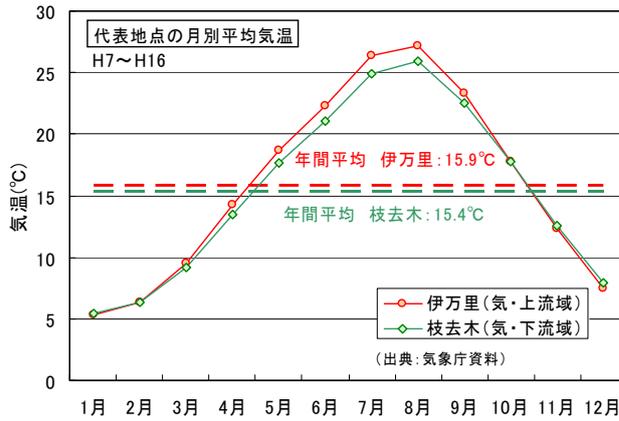


図 1- 5 代表地点の月別平均気温

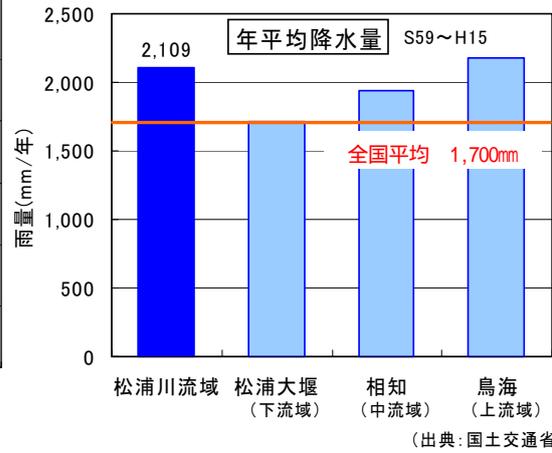


図 1- 6 年平均降水量の比較

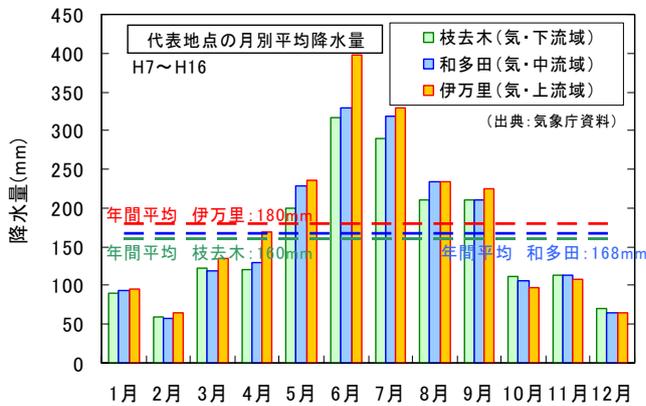


図 1- 7 代表地点の月別平均降水量